

# Newsletter Vol.21

## Topics

---

### フィリピンでの GDN 年次総会でプレナリーセッションを主催

6 月 19 日から 21 日にかけて、[第 14 回 Global Development Network \(GDN\)年次総会](#)が、フィリピンのマニラに本部を置くアジア開発銀行 (ADB) で開催されました。GDN-Japan のハブ機関を担う JICA 研究所は、レジリエンス研究に関するプレナリーを主催し、2012 年日本国際開発賞 (注) の受賞候補者による最終プレゼンテーションを行うパラレルセッションにも参加しました。

本総会は、GDN 各地域ネットワークメンバーの他、世界銀行、ADB、アフリカ開発銀行 (AfDB)、米州開発銀行 (IADB)、国連機関、さらに世界各国の NGO・民間シンクタンクなどから約 450 名が参加し、JICA 研究所からは、加藤宏所長、村上博信企画課長、相川明子職員が出席しました。

今回の会合では、「不平等、社会保護、包摂的成長」を全体のメインテーマとして取り上げ、19 日の開会プレナリーでは、アフリカ、ラテンアメリカ、アジアなどの各地域の視点から、パネリストによる発表が行われました。その後の開会式では、ピエール・ジャケ GDN 総裁をはじめ、中尾武彦 ADB 総裁、ベニグノ・アキノ フィリピン共和国大統領 (基調講演) などによるスピーチがありました。

同日のパラレルセッションでは、2012 年日本国際開発賞の最終候補者であるインド、ウガンダ、バングラデシュからの 3



加藤研究所所長

名による発表が行われ、加藤所長が議長を務めました。受賞者発表は、最終日の授与式で行われ、加藤所長から賞を授与しました。

研究所が主催した最終日のプレナリーセッション、「Toward a More Resilient Society: Perspectives of Asian Young Researchers on Post-2015」では、加藤所長が再び議長を務め、ベトナム、フィリピン、インドネシア、タイ各国からそれぞれの研究者が、自然災害における家計のレジリエンス、災害におけるコミュニティの役割、地域社会の知識、社会資本、個人レベルのレジリエンスの研究テーマについての提案を行い、ピエール・ジャケ GDN 事務局長とカナダ国際開発研究センター (IDRC) のアルジャン・デハーン氏 2 名の有識者を交えての議論が行われました。アジアの若い研究者は、取り扱う対象レベル、セクターが異なる各研究テーマの中で、どのようにレジリエンスの概念を定義し、なぜレジリエンスが重要かについて意見を交わし、ジャケ氏は、レジリエンスという学際的な幅広い概念の研究テーマの提案段階で、このようなセッションを実施することは GDN として実験的な取り組みであると評価しました。その上で、レジリエンスという概念を分析し、捉えなおす必要性にも言及しました。



レジリエンス研究に関するプレナリーセッションを開催

今回の年次総会に研究所が積極的に参加し、セッションの一部を主催したことにより、著名な研究者や各ドナー機関研究部門関係者とのネットワーク構築の強化が図られたと同時に、研究所の取り組みがこれら研究者の間で高く評価される機会となりました。

(注)国際開発賞は、宮沢蔵相(当時)が1999年に提唱したもので、開発分野における研究や刷新的な開発プログラムを発掘・助成する為に、日本政府の資金により授与されている日本国際開発賞(Japanese Award for Most Innovative Development Project:以下「プロジェクト部門」及び、Japanese Award for Outstanding Research on Development:以下「リサーチ部門」)の両賞)、並びに他国政府・団体等の資金により、5つのテーマ別に優秀な研究を表彰する Medals for Research on Development(以下「メダル部門」)で構成されています。GDN年次会合において、最優秀賞候補者プレゼンテーション、審査会、及び授賞式が行なわれています。今回の受賞者は以下の通りです。



### [Japanese Award for Most Innovative Development Project](#)

#### **First Prize**

**Title:** Integrated Biodiversity Conservation, Health and Community Development around Bwindi Impenetrable National Park

**Country:** Uganda

**Organization:** Conservation Through Public Health

#### **Second Prize**

**Title:** Promoting Infolady for Building Information and Inclusive Knowledge System

**Country:** Bangladesh

**Organization:** Dnet

#### **Third Prize**

**Title:** Development Pact

**Country:** India

**Organization:** Transparency International India

## Japanese Award for Outstanding Research on Development

**First Prize:** WONG, Sara (Ecuador)

**Title:** Labor Market Effects of Mandatory Benefit Regulations and Social Security Enrollment for Maids in Ecuador

**Country:** Ecuador

**Second Prize:** PETRESKI, Marjan(Macedonia),

MOJSOSKA-BLAZEVSKI, Nikica (Macedonia), PETRESKI, Blagica (Macedonia)

**Title:** EdPlaCo-MK: A Tool for Greater Gender Wage Equality in Macedonia, with Reference to Workers

**Country:** Macedonia

**Third Prize:** KRISTLE NATHAN, Hippu Salk (India), MISHRA, Srijit (India)

**Title:** Inclusiveness of Human Development in India

**Country:** India

---

## ポスト 2015 開発目標に関するハイレベル会合で議論

3月19日、インド・ニューデリーにおいて Global Development Network(GDN) (※1) が主催するイベント「Beyond the MDGs: What Development Framework after 2015? Post-MDG Consultation Meeting」が開催され、国内外から政府・ドナー関係者や研究者らが数多く参加し、JICA から荒川博人前理事と JICA 研究所の上野和彦職員が参加しました。

今会合は、ポスト 2015 開発目標に関するハイレベル委員会のメンバーと、GDN のネットワークに属する途上国研究者とのポスト 2015 年開発目標の枠組みにかかる学術的な観点から多面的に意見交換を行うことを主な目的として開催されました。

途上国研究者を中心に開催されたワークショップにおいて、健康や水、衛生、サステナビリティをテーマにしたセッションが設けられ、荒川前理事が議長を務めました。この中で、ハイレベル委員会事務局リサーチスペシャリストのハローン・ボラート氏からは「一つ (universal) の目標のもとで、各国が具体的な目標と政策を国・地方レベルで設定、これらをモニタリングする」との考えが一案として示されました。参加者から出された意見を踏まえて、荒川前理事は「MDGs は 9.11 をきっかけとして、さらにビル&メリンダ・ゲイツ財団のような資金的な後押しもあり今に至っている。ポスト 2015 は現在このようなモメンタムがない。簡素・明快でわかりやすい目標体系とすることが、政治的動員力を持つ枠組みを策定する上で不可欠」と強調しました。

また、荒川前理事は、その後開かれた公開シンポジウムに、アビジット・V・バナジー MIT 教授を始めとするハイレベル委員会のメンバーと共にパネリストとして参加しました。参加者から「SDGs を含める場合は先進国にも義務が生じるが、現行の枠組みでは先進国が途上国と同様に取り組むインセンティブは無い。必然的に成果達成は困難となるのでは？」などのコメントが出される中、荒川前理事は、ポスト 2015 開発目標に向けて、知識・経験の共有の重要性や南南協力の重要性について言及し、さらに「目的と手段の峻別や手段の有効性の検証、目標間の相互関連性の解明などには学究的な裏付けが必要であり、今後議論が深まることが期待される」と述べました。

※1 GDN は開発途上国及び先進国の研究者や政策実務者の間で開発に係る知識を共有し、調査研究活動と実務的活動のギャップを埋めることを目的に、世界銀行のイニシアティブで 1997 年に設立された開発途上国及び先進国の政策・研究機関及び研究者のネットワーク。GDN の地域ネットワークの 1 つである GDN-Japan は、JICA 研究所が日本のネットワークのハブ機関になっています。



荒川前理事(左)、ピエール・ジャケ GDN 事務局長(中央)、バナジーMIT 教授(右)

---

▽ご意見、ご感想などをお聞かせください。

[dritrn-gdn-japan@jica.go.jp](mailto:dritrn-gdn-japan@jica.go.jp)

▽お問い合わせ、配信先の変更・解除はこちらまでお願いいたします。

[dritrn-gdn-japan@jica.go.jp](mailto:dritrn-gdn-japan@jica.go.jp)

---

発行：GDN-Japan 事務局(JICA 研究所 企画課内)

制作：JICA 研究所 企画課 編集・発信ユニット

〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町 10-5 JICA 研究所内

<http://jica-ri.jica.go.jp/GDN/index.html>